

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、下記項目につきまして委託先より検査内容を変更する旨の連絡を受けましたので取り急ぎご案内します。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

対象項目／変更内容

● 649 トリメタジオン

変更内容	新	旧
検査方法	LC-MS/MS	GC
保存安定性	1ヶ月（凍結）	12日（凍結）

● 1216 インフルエンザ(HI)

変更内容	新	旧
測定株	A/カリフォルニア/7/2009/(H1N1)pdm09 A/テキサス/50/2012/(H3N2) B/マサチューセッツ/2/2012	A/カリフォルニア/7/2009/(H1N1)pdm09 A/ビクトリア/361/2011/(H3N2) B/ウイスコンシン/1/2010

● 3135 UGT1A1 遺伝子多型解析

変更内容	新	旧
報告形態	通常報告書 (詳細は裏面をご参照下さい)	別紙報告書(親展)

実施期日

- 平成 25 年 11 月 1日(金)受付分より

遺伝子検査の運用指針について

本検査は従来、専用報告書で検査結果を報告してまいりましたが、下記運用指針の改定に伴い通常報告書にて、結果を報告させていただきます。

従来、単一遺伝子疾患が考えられる場合、医療機関等において、各種安全管理措置(組織的、人的、物理的、技術的安全管理措置)を講じた上で、検査結果など個人情報「匿名化」にて運用することとなっていました。

しかしながら、検査指針(ファーマコゲノミクス(PGx)検査の運用指針)の改定に伴い、PGx 検査の実施においては単一遺伝子疾患が考えられる場合でも、原則として、健康障害をもたらさない場合は、匿名化の必要性や電子カルテあるいは紙カルテでの取扱い方はその限りではありません。

※ファーマコゲノミクス検査の運用指針(日本臨床検査医学会等 2012年7月改定)より一部改変のうえ転記。

報告様式の変更

- 検査結果を下表の報告例 1~6 のいずれかの検査結果及び結果から特定した遺伝型を通常報告書にてご報告致します。

測定結果	報告書表示内容
遺伝子多型を検出しなかった場合(報告例 1)	遺伝型: -/- コメント: *6*28 認めず
遺伝子多型を検出した場合(報告例 2~6)	検出した変異のタイプをコメントとして付記

●報告例

報告例	1	2	3	4	5	6
遺伝型	-/-	-/*6	-/*28	*6/*6	*6/*28	*28/*28
UGT1A1*6	-/-	-/*6	-/-	*6/*6	-/*6	-/-
UGT1A1*28	-/-	-/-	-/*28	-/-	-/*28	*28/*28
コメント	*6*28 認めず	*6 ヘテロ 接合体	*28 ヘテロ 接合体	*6 ホモ 接合体	複合ヘテロ 接合体	*28 ホモ 接合体